

研究テーマ ●トルコギキョウの新品種『奥玉洋』とその作出方法

理事 橋本 文雄

<https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/agri/agri0010/>

研究の背景および目的

観賞園芸学研究室ではトルコギキョウの花色、花形などの遺伝の仕組みを20年以上研究し、新品種の作出方法を開発しています。トルコギキョウの主要アントシアニン色素：ペラルゴニン(Pg)、シアニン(Cy)、デルフィニン(Dp)のシアニック系色素の遺伝に加え、黄色花、白色花、二重、覆輪、及びかすりの形質について、表現形質に対応する遺伝子型との関係を明らかにしました。その関係を設計図として用いて新F₁品種・鹿児島大学ブランド「奥玉洋(オーイヨウ)」を創出しました。

■おもな研究内容

■品種作出法：遺伝子型D^xD^x・E/e・B/b・H^xH^x・Pg/pg・ANS/ansを設計図として用いています。

■研究成果例：鹿児島大学ブランド「奥玉洋(オーイヨウ)」の例・以下の写真



期待される効果・応用分野

2003年にトルコギキョウの「花色遺伝型交配法」を開発、新F₁系統を作り出す品種改良の技術が実用化されました。上記、遺伝子型を設計図として用いることで、品種の改良年限を大幅に短縮することができます。この技術によって、新F₁品種・鹿児島大学ブランド「奥玉洋(オーイヨウ)」を創出しました。現在、21系統を保有、今後はさらに銘柄(系統)を増やし、生活に潤いを与える高品質な新規のトルコギキョウを社会に提供、豊かな社会の構築と花き園芸学の発展に貢献できます。

■共同研究・特許などアピールポイント

- 特許第6153213号
「トルコギキョウの新品種作出方法」
- 【登録商標】奥玉洋：商標登録第6490744号
第31類 生花の花輪,種子類,など
第35類 …顧客に対する便益の提供

🗨️コーディネーターから一言

トルコギキョウの新品種を容易に作出する方法を発見。維持・管理、生産方法の研究も進めており、珍しいトルコギキョウを市場に提供することができます。今後の実用化に向けて、ご協力・ご相談をお待ちしています。

研究分野	花卉園芸学、植物分子生物学、植物育種学、植物遺伝生化学
キーワード	トルコギキョウ、花色、切り花、花、放射線、イオンビーム、育種、園芸、花卉